



『平家物語 小督と仲国』 高久隆古作

大きさ153.0cm×174.9cm

けんぼんちやくしよくにきよくいつせきびようぶ
絹本着色二曲一隻屏風

絹本着色…絹地に彩色をしたもの

曲…屏風の扇(せん ※屏風を構成する面)を数える単位。扇が二枚つながれたものを二曲という。

隻…屏風を数える単位。対になっている屏風は雙(そう)と数える。



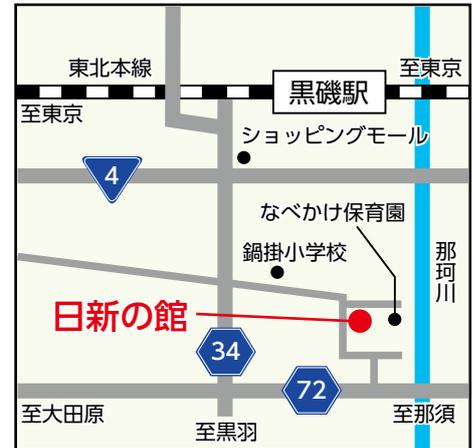
私のまちの
近い遺産

新指定! 高久隆古作

『平家物語
こごう なかくに
小督と仲国』

本市には、現在178の指定文化財がありますが、皆さんは、いくつ知っていますか。どれ一つとっても、今日まで大切に守り伝えられてきたもの。今号から、その文化財を紹介し、その魅力をお伝えしていきます。

記念すべき第1回はマルチな画家・高久隆古の絵画です。



Topic 1

実は謎が多い!? 2人の間柄

靄厓と隆古に生前どのような交流があったか、具体的な資料は今のところ見つかっていません。しかし、両者にとって重要な後ろ盾であった江戸の豪商・大橋淡雅や宇都宮の観泉寺との関係から、お互いに知っていたと思われ、いろいろ想像されます。今後の資料の発見に期待します。

日新の館で期間限定公開中!!

今回紹介した作品は、現在日新の館で開催されている企画展「靄厓と隆古」で公開されています。絵画は保存のため、常に展示室で公開することができません。この機会にぜひ、靄厓とその後継者となった隆古の作品をご覧ください。

「靄厓と隆古」展

- ▶ 期間 7月23日(日)まで
- ▶ 観覧時間 午前10時～午後5時
- ▶ 観覧料 無料 ▶ 休館日 月曜・祝日

Topic 2

江戸時代後期に活躍した本市出身の著名な画家・高久靄厓(1796～1843)。その靄厓の後継者となった高久隆古(1810～1848)を知っていますか。

隆古は、大和絵を得意とし、さらに渡辺華山や靄厓に倣った山水画、情緒豊かな風俗画なども多く描いた多才な画家です。子どもを憂いた靄厓の画系が途絶えることを憂いた周りのすすめにより、靄厓の没後、養子になりました。

今回紹介する隆古の作品は、今年新たに市の文化財に指定されました。これは、『平家物語』の中の

小督の悲恋を題材としています。高倉天皇に愛されながら、時の権力者・平清盛に疎まれ、嵯峨野に身を隠す琴の名手である小督。小督を探す笛の名手である源仲国。月明かりの中、かすかに聞こえる琴の音を頼りに、ようやく小督を探し当てた場面が描かれています。川を隔てた馬上の人物の手に笛が…。

本作品は、隆古晩年の作であり、伝統的な大和絵の中に、これまでに隆古が培ってきた技法が取り入れられています。物語の劇的な場面が大変豊かに表現されている素晴らしい作品です。